

情報メディア学科 成績に関する説明

【全学年向け説明】

情報メディア学科 教務委員

保証人の皆様

貴重なお時間を頂きありがとうございます。こうしてオンラインで保証人の皆さんと連携できることを学科教員もとても嬉しく感じています。

ここでは、情報メディア学科の学生として充実した学修ができるよう、学科のカリキュラム編成の特徴や、それに向けた必要事項・注意点・その他の留意事項を含めて解説していきます。

はじめに・・

情報メディア学科の特色として、情報メディアに関する様々な分野の教員が集まっています。それぞれが相互に関わることで、各専門分野の枠を超えた発展を目指し、それぞれのスペシャリストとなる人材育成を行っています。

そこで、個々の学生が志望する専門分野の科目だけでなく、関連する幅広い学修ができるようにするため、1本筋ではないカリキュラム構成となっています。

高校までのような、単位修得だけを目標としてしまうと、学科の特色を活かすことはできません。その点を踏まえて解説する内容をご理解下さい。

情報メディア学科の特色と研究室

情報メディア学科には、情報メディアに関する様々な分野の研究室があります。

ヒューマンメディア ゲームメディア
ビジュアルメディア サウンドメディア 等・・・

また、それぞれの分野においても、情報技術・制作技術など、研究の方向性も様々であり、研究室ごとに特色があります。

2022年度現在は、14の研究室があり、さらに9月から2名の教員を迎え、教育・研究を充実させていきます。

情報メディア学科のカリキュラムは、それら研究室とその配属に向け、関連の深い内容となっています。

卒業研究と研究室

4年次には卒業研究を履修します。卒業研究は、基本的に学科教員のいずれかの研究室に所属し、研究室の指導教員のもと、1年間かけて研究を進めて行きます。そのため卒業研究において、所属する研究室が目指す分野の研究室であることはとても重要です。

卒業研究で所属する研究室

卒業研究において所属する研究室は、実質的に3年後期の情報メディア専門ユニットⅡで配属されることとなります。よって、3年生後期開始までには、志望する専門分野の、どの研究室に所属したいかを明確にしておく必要があります。

希望する研究室を目指すために

卒業研究において、研究に必要とされる専門の知識や技術は、研究室によって様々です。そのため、配属されるまでに、志望する専門分野に見合った専門科目の修得や学修をしておくことはとても重要です。

よって、3年後期までの履修科目の選択や、ユニット科目での演習項目の選択が、研究室配属に対して大きく影響することとなります。つまり、配属までに、目指す専門分野に向けて、各自が吟味して科目を履修していくことが重要なのです。

それぞれの専門分野に対応する履修推奨科目については、履修要綱のカリキュラムツリーをご確認下さい。

カリキュラムの基本

学科ごとのカリキュラムの前段として、大学全体のカリキュラムが存在しています。特に1年次は共通基盤教育科目の必修科目が多いので、落とさないように気を付ける必要があります。

1年次



2年次



3年次



4年次

共通基盤教育

専門教育

専門基礎導入

専門基礎

専門

卒業研究

- 1年次は、基礎系の科目がメインとなります。
- 2年次以降は、個々の科目だけでなく、各学年に配置されているユニット科目も、学年が進むと専門性が高くなるようになっていきます。

学年進行に合わせて専門性が高まっていますが、並行して、各学年には、学科ごとのユニットプログラム科目が配置されています。

ユニットプログラムについて

ユニットプログラムとは、1～3年次において、各学年に配当されている、実験や調査を含む演習をし、各自の専門性を高め、知識・技術、応用力を身につけるための必修科目です。これらは、卒業研究の研究室配属にも繋がる重要な科目です。

1年次前期：情報メディア基盤ユニット	週3コマ
1年次後期：情報メディア導入ユニット	
2年次前期：情報メディア基礎ユニットⅠ	週2コマ
2年次後期：情報メディア基礎ユニットⅡ	
3年次前期：情報メディア専門ユニットⅠ	週3コマ
3年次後期：情報メディア専門ユニットⅡ	

全ての学年および学期に設置されているため、再履修することになると、同期に2つ以上のユニット受講が必要となります。

ユニットプログラムについて

1年次のユニット科目では、情報分野の基礎としてプログラミングを学び、専門分野を選択していくための基礎を身につけます。

2年次前期の「基礎ユニットⅠ」までは、全員一律に受講しますが、後期の「基礎ユニットⅡ」以降は、個々の学生が志望する専門分野の項目に分かれて受講することになります。

3年次後期の「専門ユニットⅡ」では、研究室に配属して卒業研究に向けたプレ卒研を行うこととなります。

※これらについては、配当年次に単位修得できないと、順当な学修を進めて行くことが困難になってしまいます。

【卒業研究履修の資格】

4年次に卒業研究を履修するには、3年終了時に卒業研究履修の資格をクリアする必要があります。

- 卒業研究に関する科目以外の必修科目の単位を全て修得していること
- 104単位以上、単位を修得していること

ルールそのものは、非常に単純です。順当に必要な単位を修得していけば、特に問題となることはありません。

しかし、3年前期終了時までで必修科目の取りこぼしや、単位数が大きく足りない場合（89単位以上が目安）、卒業研究の研究室配属対象とはならないため注意が必要です。

科目で不合格にならないためには

高校までと違い、大学では科目ごとに担当する教員が別々です。また、クラス担任も直接個々の科目に関わることはありません。よって科目ごとの注意事項や必須事項など、各自が自覚・認識して授業に取り組む姿勢が必要です。それが無いと、本人にそのつもりがなくても不合格となってしまうこともあります。そうならないための要点は以下の通りです。

◇指示や、提示する注意事項・必須事項を正確に把握する

自分だけの判断で、指示と違う内容に力を注いでも不合格になります。もしそれらが不明瞭であるなら、必ずその担当教員に問い合わせや質問をして解決して取り組みましょう。

科目で不合格にならないためには

◇全ての回の授業に出席する

特に演習系の授業は、積み上げ式で順を追ってスキルアップしていく授業内容となっているため、休んでしまうと、ついて行けなくなる可能性が高いです。もし、やむを得ず欠席してしまった場合には、その分を次週までに挽回しておくことも重要です。

◇提出物は必ず提出する

提出物が1つでも未提出の場合、不合格となる科目は多数あります。指示と違った内容で提出しても同様です。また、提出期限が守れない、提出方法の理解不足や提出ミスも多く、これらも減点対象となる場合が殆どです。

科目で不合格にならないためには

近年、口頭や配布資料による指示や注意事項を取りこぼし、成績に影響を与えてしまうケースが多くなっています。このことは、前述した3つのことへも大きく影響しています。

大学の授業は、履修者が多数になる科目も多く、「あとで聞き直す」ことが困難な形態です。そのため各自が、資料の読解や、授業中の集中力の必要性について、理解を高めなければなりません。

特にコロナ過において、日常生活パターンが狂い易く、授業時間中や授業に対する集中力が下がる要因が多くなっていると思われます。是非、授業に対して意識を持って取り組むよう心掛けをお願いします。

授業の欠席連絡や質問について

コロナ過ということもあり、対面授業に対する当日の体調不良の欠席についての連絡が、教務課や学生課に多く寄せられています。しかし欠席時の対応の方法や内容は個々の科目によって違い、教務課や学生課、クラス担任などは、それらを把握してはいません。もし、授業内容について連絡が必要と思われる場合は、それぞれの科目の担当教員へ、直接メールなどで相談して下さい。欠席連絡の有無に関わらず、演習科目など、以降の授業についていくためには、学生本人による挽回が必須になります。

もし、コロナ感染やインフルエンザ感染など、憂慮される理由で欠席となってしまう場合は、学生課へ届け出をすることで、相応の対応を受けることが可能になります。

情報発信について（全体への連絡の場合）

大学や学科、個々の科目などからの全体への情報は、基本的にmanaba等のオンラインでの提供となります。manaba上の学科掲示板や学年ごとの掲示板、科目のコースなどを小まめにチェックし、重要な情報の取りこぼしが無いように、十分気を付けて下さい。

なお、各授業の連絡は、授業開始前にmanabaの履修登録されているコースで行われます。特に学期初めには各授業の進め方などの重要な連絡が多く出されます。取りこぼしてしまうと、後の授業に大きく影響することも多いため、必ずチェックして下さい。

manabaに掲示されるタイミングは、教員の事情によっても変わります。こまめにチェックすることが必要です。

情報発信について（個人への連絡の場合）

教員や事務からの個別の連絡は、学籍番号のメールアドレスに届きます。常に受信確認できるように設定し、読みこぼしの無いようにして下さい。

現在学生には、2種類のアカウントが大学から与えられていますが、メッセージを送受信するアドレスは、@cco.kanagawa-it.ac.jp を使用するように指導しています。@kait.jp のアドレスは、KAIT Walkerなどの認証システム専用のアドレスため、メール発信機能の利用は認めていません。

なお、教員へメール連絡をする場合は、基本的に@ic.kanagawa-it.ac.jp のアドレスへ送信して下さい。

履修修正について

後期開始時に、後期科目履修修正期間があります。

9月16日(金)～26日(月)

- 必修科目であっても、履修登録していなければ、受講しても単位取得できません。
- 履修する科目は個々に違うため、必ず自分でチェックする必要があります。
- 必修科目の再履修がある科目は、それを優先して登録変更をしましょう。
- CAP制度に照らし合わせ、単位数を確認して登録することも必要です。

なお、10月18日(火)～27日(木)には、履修キャンセル期間がありますが、ここでは追加の履修登録はできません。追加で履修が必要な場合は、履修修正期間に登録して下さい。

資格取得と単位認定について

資格は実社会に出てからも活かすことのできるものです。特に、情報学部における情報系の資格や、情報メディア学科における情報メディア系の資格を取得していると、就職活動で有利に働きます。そのため、資格取得を考えているのであれば、3年前期までに取得しておくことで就職活動に活かせます。

また、大学では資格取得を支援しており、合格した資格の受験料の給付や、大学が認めた資格についての単位認定をしています。（詳細はKaitWalkerを参照して下さい）

単位認定を希望する場合、申請期間内（2月初旬まで）に届け出が必要です。合格証が間に合わない場合は、次年度の認定となります。（期間などの詳細は教務科まで）

ここからは、

1年次生向け詳細説明

となります。

1年次の注意事項

1年次は、カリキュラム上、主に基礎学力をつける科目が多く、専門性の高い授業があまりありません。その分、共通基盤教育に分類される必修科目が多数配当されています。

これらは、その学年で取得することで、その後の専門分野に活かされることを目的として配当されています。また、後回しにしてしまうと、専門分野への学修に時間を割く必要があるなかで、基礎系の科目を履修しなければならなくなり、時間的にも足かせとなってしまいます。特に必修科目は、配当学年での修得を強く心掛けて下さい。

学科の専門の必修科目も同様で、特にユニット科目はそれなりに負荷があります。再履修するには対象学年のユニット科目と被り、高負荷となってしまいうため注意が必要です。

1年前期終了時の取得単位の目安

18～24単位を取得し、以下の前期の必修科目の全ての単位を取得できていれば問題ありません。

身の回りの数学

実感する科学

スタディスキル

現代社会講座

キャリア設計

情報リテラシー

IT基礎

情報メディア基盤ユニット

もし、これらを達成できていない場合、カリキュラム上、遅れが生じることとなります。現時点で4年間で卒業できなくなることが確定してしまう訳ではありませんが、もし、後期の取得単位の状況が同様となれば、留年する可能性が大きくなります。そうならないために、学修への取り組みについて、しっかり見直し、後期から挽回を目指して下さい。

不合格の必修科目について

前期の必修科目のうち、以下の科目については、後期に再履修者用の特別科目があります。

身の回りの数学 スタディスキル 現代社会講座
(時間割上で「(特)〇〇」と表記されています)

これらが前期不合格となってしまった場合は、必ず後期に再履修者用特別科目を履修して挽回しましょう。

上記以外の前期の必修科目が不合格の場合は、来年度前期に再履修することとなります。

必修科目を落としていると、3年次後期の卒研配属に影響があり、また、3年後期終了時には必要な必修科目を修得していないと留年となるため、必ず早期に取得して下さい。

1年次のユニット科目

1年次のユニットプログラムの科目は、プログラミングの演習科目です。情報メディア学科にはプログラミングに苦手意識が強い学生もいますが、初歩からの演習となっており、一步一步着実に実力を身に付けていける内容です。欠席せず、途中で集中力をきらさず、分からないことを後回しにしないことが重要です。また、理解度を確かめる提出物や中間試験など、提示される必須項目を全てこなすことも重要です。

もし、前期に落としてしまっているのであれば、来年度、同じ過ちを繰り返さないようしっかり意識を持って再履修して下さい。もし、基礎学力が足りていないと感じる場合は、基礎教育支援センターの利用も推奨しています。

以上となりますが、保証人の皆様より、気になることが御座いましたら、クラス担任までお気軽にご相談下さい。

クラス担任への連絡方法が不明な際には、
学生課: 046-241-9394 までご連絡下さい。

なお、教務課による成績表の見方などの解説、「教務関係について」も併せてご確認ください。

情報メディア学科
教務委員